

編集後記

本号は、令和7年3月に定年を迎えられる三瓶慎一先生のご退職記念号です。この場を借りまして、ご寄稿いただいた多くの先生に深く感謝申し上げます。

三瓶先生は1989年、まさに元号が平成に変わった年に本塾に就職され、法学部のドイツ語教育全般、とりわけ、現在のドイツ語インテンシブコースの立ち上げとその後の運営に力を注いでくださいました（詳しくは本号掲載の先生のエッセイをご覧ください）。先生は、もともとドイツ語の音韻論、副詞に関する研究をされていましたが、学部の事情でインテンシブコースのみならず、地域文化論（ドイツ〔語圏〕研究入門）、戦後ドイツ社会通史）などの科目を担当されることになり、教育分野、社会学的な分野など幅広い領域で本学の教育に貢献してくださいました。

一方、学部外の委員では国際センター副所長として交換留学を希望する学生の支援にも尽くされました。私も数年委員をご一緒させていただいたことがありますが、学内でも特に留学希望者の多い法学部の学生の支援には三瓶先生のお力が必要不可欠であることを遅ればせながらこの時強く実感しました。会議の場でも、常に毅然とした態度で交換留学のあり方を仰ってください、先生がこのような陰でしっかり学生を支えてくださっていたからこそ、数多くの学生が本塾の代表として胸を張って海外に羽ばたくことができたのではないかと思います。

三瓶先生の長年に亘る学部および義塾に対する多大な貢献に改めて深く感謝申し上げますと同時に、先生の今後のご健康とご活躍を心より祈念し本号を捧げたいと思います。

令和7年2月

（編集責任者 篠原俊吾）